

令和 2年度 事務事業評価表 (平成31年度)

事務事業名	周南緑地整備事業費	担当所属	公園花とみどり課
		連絡先	

【事務事業基本情報】

分野	6都市基盤	事業期間	～
基本施策	3緑の空間の創造	会計種別	一般会計
推進施策	(1)公園・緑地の整備の促進	事業種別	自治事務
根拠法令要綱	都市公園法		

【事業概要・指標】

事業概要	対象	周南緑地(緩衝緑地)
	意図	周南地域の中核となる都市公園であり、スポーツ交流の拠点、憩いの空間として市民に親しまれ、安全・安心・快適で魅力のある公園として計画的な整備を行う。
	成果	周南地域の中核となる都市公園として、安心・安全で快適な公園環境の形成と機能維持を目指し計画的な整備を行うことで、スポーツ交流の拠点施設機能等の充実が図られ利便性が向上し、利用者数の増加が見込まれる。
	手段	周南緑地基本計画に基づく施設整備の実施。

【指標の推移】

指標名		単位	H29年度実績	H30年度実績	H31年度実績	R 2年度見込	
指標①	年間利用者数	目標値	人	800000	800000	800000	700000
		実績値	人	743063	796503	695530	-
		目標達成度	%	92.88	99.56	86.94	-
指標②		目標値					
		実績値				-	
		目標達成度	%				-

指標の増減維持理由

R2年度の目標値の変更は、新型コロナウイルスの影響により利用者数の減少が見込まれるため。

【投入コスト・人員】

年度	単位	平成28年度 決算	平成29年度 決算	平成30年度 決算	平成31年度 決算	令和 2年度 予算	
トータルコスト	千円	27,596	69,401	89,883	24,359	32,037	
事業費	千円	20,269	62,033	78,500	10,999	21,000	
特定財源	国庫支出金	千円	4,403	17,129	9,244	5,000	5,000
	県支出金	千円	0	0	0	0	0
	地方債	千円	5,900	15,400	51,100	4,500	4,500
	受益者負担	千円	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0
一般財源	千円	9,966	29,504	18,156	1,499	11,500	
人件費合計	千円	7,327	7,368	11,383	13,360	11,037	
正職員	千円	7,327	7,368	11,383	13,360	11,037	
人員	人	1,000	1,000	1,550	1,840	1,520	

【環境変化等】

開始時の周辺環境	昭和43年から61年にかけて公害防止事業団により共同福利施設として整備された緩衝緑地である。
現状の周辺環境	本市におけるスポーツ・レクリエーションの拠点であり広場が多数あることなどから災害時の復旧・復興活動を行う広域防災拠点に指定されている。
今後の予想される周辺環境	人口減少、少子高齢化は全国的な課題であり、周陽地区においても空洞化による人口減少は例外ではない。

【事業の評価】

【目的妥当性評価】 1. 市の関与（税金支出）		
評価	A	妥当である
【目的妥当性評価】 2. 事務事業の目的（対象・意図）		
評価	A	妥当である
【目的妥当性評価】 3. 事務事業の目標（活動指標等）		
評価	B	現段階では妥当である 年間利用者数で利用度を把握している。
【有効性評価】 4. 計画の実施状況		
評価	B	概ね実施できた
【有効性評価】 5. 事務事業の目標（活動指標等）の達成度		
評価	B	概ね達成できた 天候等の条件により利用者数の増減がある。1月以降は、新型コロナの影響で施設閉鎖に伴い激減した。
【有効性評価】 6. 上位施策への貢献度		
評価	A	貢献できた
【有効性評価】 7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		
評価	B	向上余地が考えられる（中小程度）
【効率性評価】 8. 投入経費（コスト）削減へのさらなる取組み		
評価	A	削減余地はない
【効率性評価】 9. 類似事業との統合・代替の検討		
評価	A	類似事業はない
【効率性評価】 10. これまでの実施手段		
評価	C	見直す余地がある（B以外の方法） 公民連携による民間活力の可能性

【総合評価】		
評価	B	周南緑地基本計画や長寿命化計画に基づき、公園利用者の安心・安全と施設の更新を図るため、計画的に事業を進めていく。

【改革案】

今後の実施方向性 手段変更 PPP/PFIの導入検討。		期待効果		
		コスト		
		削減	維持	増大
成果	上昇	○		
	維持 縮小			
改革効果（どのような効果が期待できるか） 公民連携による周南緑地広域スポーツ地区の永続的な活性化。				

令和 2年度 事務事業評価表 (平成31年度)

事務事業名	鹿野天神山公園整備事業費	担当所属	公園花とみどり課
		連絡先	

【事務事業基本情報】

分野	6都市基盤	事業期間	～
基本施策	3緑の空間の創造	会計種別	一般会計
推進施策	(1)公園・緑地の整備の促進	事業種別	自治事務
根拠法令要綱			

【事業概要・指標】

事業概要	対象	鹿野天神山公園 (普通公園)
	意図	中山間地域の拠点となる公園・緑地として、適切な維持・管理と公園機能の充実を図る。
	成果	中山間地域の拠点となる公園として、安心・安全で快適な公園環境の形成と機能維持を目指し計画的な整備を行うことで、観光・レクリエーション機能等が充実し、利用者数の増加が見込まれる。
	手段	周南市過疎地域自立促進計画に基づき、平成28年度から令和2年度の5年間で計画的な整備を行う。

【指標の推移】

	指標名	単位	H29年度実績	H30年度実績	H31年度実績	R 2年度見込	
指標①	改修施設数	目標値	箇所	3	1	3	0
		実績値	箇所	2	1	3	-
		目標達成度	%	66.67	100.00	100.00	-
指標②		目標値					
		実績値					-
		目標達成度	%				-

指標の増減維持理由

過疎地域自立促進計画に基づき計画的に整備を行うため、過疎債の財源を確保し整備を行っていく。

【投入コスト・人員】

年度	単位	平成28年度 決算	平成29年度 決算	平成30年度 決算	平成31年度 決算	令和 2年度 予算
トータルコスト	千円	9,030	19,526	8,196	11,532	0
事業費	千円	5,000	14,737	5,258	4,997	0
特定財源	国庫支出金	千円	0	0	0	0
	県支出金	千円	0	0	0	0
	地方債	千円	4,900	14,700	5,200	4,900
	受益者負担	千円	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0
	一般財源	千円	100	37	58	97
人件費合計	千円	4,030	4,789	2,938	6,535	0
正職員	千円	4,030	4,789	2,938	6,535	0
人員	人	0.550	0.650	0.400	0.900	0.000

【環境変化等】

開始時の周辺環境

鹿野地域のほぼ中央に位置し、市街地を展望できる天神山に、「ふるさと創生事業交付金」を財源として、平成6年に開園した普通公園である。
平成3年から施設整備を進め、平成4年に庭園やモニュメント、平成5年にふれあい広場やテニスコートの整備を行った。

現状の周辺環境

観光やレクリエーション、地域の憩いの場として利用されているが、公園開設後25年が経過し、施設の老朽化が進行している。

今後の予想される周辺環境

老朽化した施設の改修・更新を実施し、中山間地域の拠点として魅力ある公園づくりが求められる。

【事業の評価】

【目的妥当性評価】 1. 市の関与（税金支出）		
評価	A	妥当である
【目的妥当性評価】 2. 事務事業の目的（対象・意図）		
評価	B	現段階では妥当である
【目的妥当性評価】 3. 事務事業の目標（活動指標等）		
評価	B	現段階では妥当である 改修施設数での目標を設定している。
【有効性評価】 4. 計画の実施状況		
評価	B	概ね実施できた 過疎地域自立促進計画に基づき整備を行った。
【有効性評価】 5. 事務事業の目標（活動指標等）の達成度		
評価	A	達成できた 目標数と同じ整備を行った。
【有効性評価】 6. 上位施策への貢献度		
評価	B	概ね貢献できた
【有効性評価】 7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		
評価	B	向上余地が考えられる（中小程度） 過疎地域自立促進計画の見直し
【効率性評価】 8. 投入経費（コスト）削減へのさらなる取組み		
評価	A	削減余地はない
【効率性評価】 9. 類似事業との統合・代替の検討		
評価	A	類似事業はない
【効率性評価】 10. これまでの実施手段		
評価	A	最適である 過疎債を最大限活用している。

【総合評価】		
評価	B	利用者の安全安心のため、適切な維持管理を行うとともに、地域の特色ある景観保全に向け、計画的に整備を進め、交流人口の増加を図っていく。

【改革案】

今後の実施方向性 維持		期待効果		
過疎債を活用し、過疎自立促進計画に基づき整備することで利用者の安全安心な公園利用を促進する。		コスト		
		削減	維持	増大
成果	上昇			
	維持 縮小	○		
改革効果（どのような効果が期待できるか）				
公園利用者の安全性確保及び交流人口増加による地域の活性化。				

令和 2年度 事務事業評価表 (平成31年度)

事務事業名	公園施設長寿命化対策事業費	担当所属	公園花とみどり課
		連絡先	

【事務事業基本情報】

分野	6都市基盤	事業期間	～
基本施策	3緑の空間の創造	会計種別	一般会計
推進施策	(1)公園・緑地の整備の促進	事業種別	自治事務
根拠法令要綱	都市公園法		

【事業概要・指標】

事業概要	対象	都市公園
	意図	設置から30年以上経過し、施設の老朽化が進んでいる都市公園において、公園施設の計画的な維持管理の方針や長寿命化対策を定め、公園施設の安全性確保と機能保全を図りつつ、ライフサイクルコストの縮減や平準化を図る。
	成果	安心・安全で快適な公園環境の形成と機能維持を目指し計画的な長寿命化対策を実施することで、安全性・利便性・快適性の確保やライフサイクルコストの縮減が図れる。
	手段	周南市公園施設長寿命化計画に基づく、計画的な維持管理及び適切な長寿命化対策の実施。

【指標の推移】

	指標名	単位	H29年度実績	H30年度実績	H31年度実績	R 2年度見込	
指標①	長寿命化対策着手公園数	目標値	箇所	10	2	4	5
		実績値	箇所	6	4	3	-
		目標達成度	%	60.00	200.00	75.00	-
指標②		目標値					
		実績値					-
		目標達成度	%				-

指標の増減維持理由

--

【投入コスト・人員】

年度	単位	平成28年度 決算	平成29年度 決算	平成30年度 決算	平成31年度 決算	令和 2年度 予算	
トータルコスト	千円	13,705	11,249	31,746	37,099	49,517	
事業費	千円	7,477	6,091	21,832	24,102	33,398	
特定財源	国庫支出金	千円	1,274	1,300	9,500	12,000	15,500
	県支出金	千円	0	0	0	0	0
	地方債	千円	1,100	1,100	8,500	10,800	13,900
	受益者負担	千円	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	5,103	3,691	3,832	1,302	3,998
人件費合計	千円	6,228	5,158	9,914	12,997	16,119	
正職員	千円	6,228	5,158	9,914	12,997	16,119	
人員	人	0.850	0.700	1.350	1.790	2.220	

【環境変化等】

<p>開始時の周辺環境</p> <p>高度経済成長期に集中投資した社会資本ストックの老朽化が急速に進行しており、厳しい財政事情の下で適切に維持管理を行っていくことが、施設管理者にとって重要となっている。</p>
<p>現状の周辺環境</p> <p>公園に関するニーズが多様化しているが、公園利用者の安心安全を確保するため、既存施設の老朽化の進行に対して、計画的な長寿命化対策を推進する必要がある。</p>
<p>今後の予想される周辺環境</p> <p>人口減少と少子高齢化が進展する中、持続可能な公園の維持管理が求められる。</p>

【事業の評価】

【目的妥当性評価】 1. 市の関与（税金支出）		
評価	B	現段階では妥当である 施設の老朽化が進行しており、公園利用者の安全安心確保のため長寿命化の観点に立った計画的な改築・更新が必要。
【目的妥当性評価】 2. 事務事業の目的（対象・意図）		
評価	A	妥当である
【目的妥当性評価】 3. 事務事業の目標（活動指標等）		
評価	B	現段階では妥当である 長寿命化対策着手公園数を指標としている。
【有効性評価】 4. 計画の実施状況		
評価	B	概ね実施できた
【有効性評価】 5. 事務事業の目標（活動指標等）の達成度		
評価	B	概ね達成できた 老朽化した公園施設の改修・更新の整備を行った。
【有効性評価】 6. 上位施策への貢献度		
評価	A	貢献できた 老朽化した公園施設の改修・更新により公園利用者の安全性を確保。
【有効性評価】 7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		
評価	A	向上余地はない
【効率性評価】 8. 投入経費（コスト）削減へのさらなる取組み		
評価	A	削減余地はない
【効率性評価】 9. 類似事業との統合・代替の検討		
評価	A	類似事業はない
【効率性評価】 10. これまでの実施手段		
評価	B	見直す余地がある（ICTの利活用により見直しの余地あり） 公園施設の老朽化の進行に対して、長寿命化対策を進捗させる必要がある。

【総合評価】		
評価	B	周南市の都市公園の内、長寿命化計画を策定している公園は24公園であり、公園利用者の安全・安心の確保の観点から事業拡充する必要がある。

【改革案】

今後の実施方向性 拡充		期待効果		
公園施設の老朽化の進行は今後益々顕著となり、現在の事業進捗状況では安全性を確保するため、公園施設の撤去や利用禁止で対応することとなり、市民への著しいサービス低下となる。		コスト		
		削減	維持	増大
成果	上昇			○
	維持縮小			
改革効果（どのような効果が期待できるか）				
公園利用者の安全性確保及び快適性の向上。				

令和 2年度 事務事業評価表 (平成31年度)

事務事業名	公園緑地一般事務費	担当所属	公園花とみどり課
		連絡先	

【事務事業基本情報】

分野	6都市基盤	事業期間	～
基本施策	3緑の空間の創造	会計種別	一般会計
推進施策	(2)公園・緑地・街路樹の維持管理の促進	事業種別	自治事務
根拠法令要綱			

【事業概要・指標】

事業概要	対象	公園緑地等の適切な維持管理によって、地域の景観や良好な居住環境を確保するため、ソフト面を主体として事務事業を推進する。
	意図	公園緑地等の維持管理に必要な事務事業を実施し、公園緑地環境の適切な保全を図る。
	成果	公園緑地の維持・整備に関する一般事務を集約し効率的に実施することで、課内他事業の業務を円滑に進め、公園緑地環境の適切な保全を図る。
	手段	<ul style="list-style-type: none"> 公園緑地等の管理車輛の維持管理 (パッカー車3台・クレーン付トラック1台・原付バイク1台) 公園関係団体負担金 (日本公園緑地協会)

【指標の推移】

	指標名	単位	H29年度実績	H30年度実績	H31年度実績	R 2年度見込
指標①	目標値					
	実績値					-
	目標達成度	%				-
指標②	目標値					
	実績値					-
	目標達成度	%				-

指標の増減維持理由

--	--	--	--	--	--	--

【投入コスト・人員】

年度	単位	平成28年度 決算	平成29年度 決算	平成30年度 決算	平成31年度 決算	令和 2年度 予算
トータルコスト	千円	4,928	5,259	3,786	6,049	9,538
事業費	千円	2,217	2,091	2,097	4,234	2,858
特定財源	国庫支出金	千円	0	0	0	0
	県支出金	千円	0	0	0	0
	地方債	千円	0	0	0	0
	受益者負担	千円	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	845
一般財源	千円	2,217	2,091	2,097	3,389	2,826
人件費合計	千円	2,711	3,168	1,689	1,815	6,680
正職員	千円	2,711	3,168	1,689	1,815	6,680
人員	人	0.370	0.430	0.230	0.250	0.920

【環境変化等】

開始時の周辺環境	公園緑地等の適切な維持管理によって地域の景観や良好な居住環境を確保する。
現状の周辺環境	公園緑地の維持管理に必要な事務事業を実施し、公園緑地環境の快適な保全を図る。
今後の予想される周辺環境	公園緑地等の維持・整備に関する一般事務を集約し効率的に実施することで、課内他事業の業務を円滑に進め、公園緑地環境の適切な保全を図ることが出来る。

【事業の評価】

【目的妥当性評価】 1. 市の関与（税金支出）		
評価	B	現段階では妥当である
【目的妥当性評価】 2. 事務事業の目的（対象・意図）		
評価	B	現段階では妥当である
【目的妥当性評価】 3. 事務事業の目標（活動指標等）		
評価	B	現段階では妥当である
公園緑地等の維持管理に必要な事務事業を実施し、公園緑地環境の適切な保全を図る。		
【有効性評価】 4. 計画の実施状況		
評価	B	概ね実施できた
【有効性評価】 5. 事務事業の目標（活動指標等）の達成度		
評価	B	概ね達成できた
公園緑地の維持管理に関する一般事務を集約し、効果的に実施することで、業務を円滑に進め、公園緑地環境の適切な保全を実施できた。		
【有効性評価】 6. 上位施策への貢献度		
評価	B	概ね貢献できた
【有効性評価】 7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		
評価	B	向上余地が考えられる（中小程度）
【効率性評価】 8. 投入経費（コスト）削減へのさらなる取組み		
評価	A	削減余地はない
【効率性評価】 9. 類似事業との統合・代替の検討		
評価	B	類似事業はあるが、統合・代替は困難
【効率性評価】 10. これまでの実施手段		
評価	A	最適である

【総合評価】		
評価	B	毎年公園緑地の維持管理のため効率的に事務を執行していく

【改革案】

今後の実施方向性	維持	期待効果			
	成果	上昇維持	コスト		
			削減	維持	増大
		縮小		○	
改革効果（どのような効果が期待できるか）					

令和 2年度 事務事業評価表 (平成31年度)

事務事業名	公園・街路樹維持管理事業費	担当所属	公園花とみどり課
		連絡先	

【事務事業基本情報】

分野	6都市基盤	事業期間	～
基本施策	3緑の空間の創造	会計種別	一般会計
推進施策	(2)公園・緑地・街路樹の維持管理の促進	事業種別	自治事務
根拠法令要綱			

【事業概要・指標】

事業概要	対象	・対象都市公園等(166箇所、182.50ha) ・街路樹50路線
	意図	公園の管理体制の充実を図り、誰もが安心安全に利用できるように維持管理を行う。 街路樹の維持管理においても緑の保全と景観、交通の安全に配慮し適正な管理を行う。
	成果	快適な公園環境の維持管理を行うことで、誰もが安全安心に利用できる地域のレクリエーションの場を確保し、コミュニティの活性化を図る。 景観形成や交通安全に配慮しながら、街路樹の適切な維持管理を行うことで、まちなかの緑の保全を図る。
	手段	都市公園及び普通公園を、利用者が安全・安心に利用できるよう管理を行う。 街路樹について、周辺の交通安全を配慮しつつ、まちの緑化推進のため適正な管理を行う。 (1)公園数 ・都市公園(全体) 166箇所 182.50ha ・普通公園 4箇所 3.12ha ・未開設公園 40箇所 2.56ha (2)街路樹管理路線 50路線 ・徳山地区29路線 ・新南陽地区12路線 ・熊毛地区9路線 【業務内容】公園全般の管理、樹木の管理、公園施設の管理、有料施設の管理・運営、公園緑地の使用及び占用許可、公園使用料等の収納、トイレの清掃・管理、街路樹の管理他 【管理体制】嘱託職員5名雇用

【指標の推移】

指標名		単位	H29年度実績	H30年度実績	H31年度実績	R 2年度見込
指標①	遊具の点検回数	目標値	回	6	6	6
		実績値	回	6	6	-
		目標達成度	%	100.00	100.00	100.00
指標②		目標値				-
		実績値				-
		目標達成度	%			

指標の増減維持理由

【投入コスト・人員】

年度	単位	平成28年度 決算	平成29年度 決算	平成30年度 決算	平成31年度 決算	令和 2年度 予算	
トータルコスト	千円	133,718	129,229	145,187	154,102	152,896	
事業費	千円	118,478	113,535	122,347	129,052	130,460	
特定財源	国庫支出金	千円	0	0	0	0	
	県支出金	千円	0	0	0	0	
	地方債	千円	0	0	0	0	
	受益者負担	千円	4,061	4,166	5,682	3,455	3,811
	その他	千円	0	0	0	0	7,000
一般財源	千円	114,417	109,369	116,665	125,597	119,649	
人件費合計	千円	15,240	15,694	22,840	25,050	30,602	
正職員	千円	15,240	15,694	22,840	25,050	22,436	
人員	人	2,080	2,130	3,110	3,450	3,090	

【環境変化等】

開始時の周辺環境	開発行為等に伴う都市公園も年々増えており、市民の要望、苦情も多様化、増加している。 経年劣化による遊具等の公園施設の老朽化が進んでいる。 樹木の肥大化による落ち葉、越境問題等の苦情が増えている。
現状の周辺環境	公園愛護会の会員の高齢化が進む中、継続的な活動のできる体制づくりが課題となっている。 施設の老朽化、市民の要望の多様化により、対応に係るコストは大きく増加している。
今後の予想される周辺環境	安心安全で快適な公園環境の保持と街路樹による良好な景観と居住環境を創造する。

【事業の評価】

【目的妥当性評価】 1. 市の関与（税金支出）		
評価	A	妥当である
【目的妥当性評価】 2. 事務事業の目的（対象・意図）		
評価	A	妥当である
【目的妥当性評価】 3. 事務事業の目標（活動指標等）		
評価	B	現段階では妥当である
【有効性評価】 4. 計画の実施状況		
評価	B	概ね実施できた
【有効性評価】 5. 事務事業の目標（活動指標等）の達成度		
評価	A	達成できた
【有効性評価】 6. 上位施策への貢献度		
評価	B	概ね貢献できた
【有効性評価】 7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		
評価	B	向上余地が考えられる（中小程度）
【効率性評価】 8. 投入経費（コスト）削減へのさらなる取組み		
評価	B	削減余地が考えられる（中小程度）
【効率性評価】 9. 類似事業との統合・代替の検討		
評価	B	類似事業はあるが、統合・代替は困難
【効率性評価】 10. これまでの実施手段		
評価	B	見直す余地がある（ICTの利活用により見直しの余地あり）

【総合評価】		
評価	B	良好な景観や生態系の保全等の機能を維持するため樹木の管理マニュアルを基に、委託業者への指導を行うなど効率的かつ適正な維持管理を図る。 また、公園愛護会活動の充実を図り、市民協働のまちづくりによる総体的な維持管理費の縮減を図っていく。

【改革案】

今後の実施方向性 維持 事故を未然に防ぐための予防保全的な維持管理を計画的に推進する。 公園愛護会活動の充実を図り、市民協働のまちづくりによる総体的な維持管理費の縮減を図っていく。	期待効果			
	成果	コスト		
		削減	維持	増大
	上昇		○	
	維持			
	縮小			
改革効果（どのような効果が期待できるか）				

令和 2年度 事務事業評価表 (平成31年度)

事務事業名	永源山公園管理事業費	担当所属	公園花とみどり課
		連絡先	

【事務事業基本情報】

分野	6都市基盤	事業期間	～
基本施策	3緑の空間の創造	会計種別	一般会計
推進施策	(2)公園・緑地・街路樹の維持管理の促進	事業種別	自治事務
根拠法令要綱			

【事業概要・指標】

事業概要	対象	永源山公園（総合公園）
	意図	永源山公園の適正な維持管理を行い、レクリエーションやコミュニティの場として安全安心で、気軽に利用できる公園とする。
	成果	快適な公園環境の維持管理を行うことで、誰もが安全安心に利用できる地域のレクリエーションの場が確保され、利用者数の増加が見込まれる。
	手段	【公園の種類】都市計画公園（総合公園） 開園面積：18.0ha 【主要施設】市制広場他14広場、各種遊具、レジャープール、風車、野外ステージ 公園管理事務所、軽飲食施設他 【管理運営】指定管理〔グリーン環境協同組合〕

【指標の推移】

指標名		単位	H29年度実績	H30年度実績	H31年度実績	R 2年度見込	
指標①	年間利用者数	目標値	人	330000	330000	330000	270000
		実績値	人	348418	318626	282892	-
		目標達成度	%	105.58	96.55	85.72	-
指標②		目標値					
		実績値				-	
		目標達成度	%				-

指標の増減維持理由

R 2年度の目標値の変更は、新型コロナウイルスの影響により利用者数の減少が見込まれるため。

【投入コスト・人員】

年度	単位	平成28年度 決算	平成29年度 決算	平成30年度 決算	平成31年度 決算	令和 2年度 予算	
トータルコスト	千円	64,513	63,093	62,402	68,745	61,976	
事業費	千円	58,212	56,535	55,866	54,586	56,821	
特定財源	国庫支出金	千円	0	0	0	0	
	県支出金	千円	0	0	0	0	
	地方債	千円	0	0	0	0	
	受益者負担	千円	6,677	6,866	6,149	5,481	6,150
	その他	千円	0	0	0	0	0
一般財源	千円	51,535	49,669	49,717	49,105	50,671	
人件費合計	千円	6,301	6,558	6,536	14,159	5,155	
正職員	千円	6,301	6,558	6,536	14,159	5,155	
人員	人	0.860	0.890	0.890	1.950	0.710	

【環境変化等】

開始時の周辺環境	開園（昭和60年）後34年を経過しており、施設の老朽化が進み、長寿命化の観点に立った計画的な改修が必要。平成20年から指定管理者を導入している。
現状の周辺環境	新規利用者の開拓 園内の松くい虫対策の継続 開園後34年経過し、施設の老朽化が進んでいる
今後の予想される周辺環境	サービス向上による公園利用者の増加と管理経費の節減。

【事業の評価】

【目的妥当性評価】 1. 市の関与（税金支出）		
評価	A	妥当である
【目的妥当性評価】 2. 事務事業の目的（対象・意図）		
評価	A	妥当である
【目的妥当性評価】 3. 事務事業の目標（活動指標等）		
評価	B	現段階では妥当である
【有効性評価】 4. 計画の実施状況		
評価	B	概ね実施できた
【有効性評価】 5. 事務事業の目標（活動指標等）の達成度		
評価	B	概ね達成できた
【有効性評価】 6. 上位施策への貢献度		
評価	B	概ね貢献できた
【有効性評価】 7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		
評価	B	向上余地が考えられる（中小程度）
【効率性評価】 8. 投入経費（コスト）削減へのさらなる取組み		
評価	B	削減余地が考えられる（中小程度）
【効率性評価】 9. 類似事業との統合・代替の検討		
評価	B	類似事業はあるが、統合・代替は困難
【効率性評価】 10. これまでの実施手段		
評価	B	見直す余地がある（ICTの利活用により見直しの余地あり）

【総合評価】		
評価	B	公園施設の安全性の確保及びライフサイクルコストの縮減に向けて、予防保全的管理による長寿命化対策を含めた計画的な改修等を進めていく。

【改革案】

今後の実施方向性 維持 指定管理者による業務実績を検証し、検証結果を基に予防保全的な維持管理を実施することにより、より効果的な管理運営を進める。		期待効果		
		コスト		
		削減	維持	増大
成果	上昇 維持		○	
	縮小			
改革効果（どのような効果が期待できるか）				
（ここに期待される効果の記述欄）				

令和 2年度 事務事業評価表 (平成31年度)

事務事業名	周南緑地管理事業費	担当所属	公園花とみどり課
		連絡先	

【事務事業基本情報】

分野	6都市基盤	事業期間	～
基本施策	3緑の空間の創造	会計種別	一般会計
推進施策	(2)公園・緑地・街路樹の維持管理の促進	事業種別	自治事務
根拠法令要綱			

【事業概要・指標】

事業概要	対象	周南緑地 (緩衝緑地)
	意図	周南地域の中核となる都市公園であり、適正な維持管理を行い、スポーツ交流の拠点、憩いの空間として市民に親しまれ、安全安心で、気軽に利用できる公園とする。
	成果	快適な公園環境の維持管理を行うことで、誰もが安全安心に利用できる地域のレクリエーションの場としてだけでなく、スポーツ交流や広域防災の拠点として活用される多機能な施設として、利用者数の増加が見込まれる。
	手段	【公園の種類】 都市計画公園 (緩衝緑地) 開園面積 : 79.6ha 【主要施設】 西緑地26.8ha、中央緑地20.07ha、東緑地28.23ha、横浜緑地2.7ha、遠石緑地1.8ha 【管理運営】 指定管理 [(公財)周南市体育協会] は、東緑地、中央緑地のみ。西緑地の維持管理は直営で実施している。

【指標の推移】

指標名		単位	H29年度実績	H30年度実績	H31年度実績	R 2年度見込	
指標①	年間利用者数	目標値	人	800000	800000	800000	700000
		実績値	人	743063	796503	695530	-
		目標達成度	%	92.88	99.56	86.94	-
指標②		目標値					
		実績値				-	
		目標達成度	%				-

指標の増減維持理由

R 2年度の目標値の変更は、新型コロナウイルスの影響により利用者数の減少が見込まれるため。

【投入コスト・人員】

年度	単位	平成28年度 決算	平成29年度 決算	平成30年度 決算	平成31年度 決算	令和 2年度 予算	
トータルコスト	千円	44,499	46,763	44,199	46,695	40,813	
事業費	千円	38,344	41,384	38,103	39,289	35,948	
特定財源	国庫支出金	千円	0	0	0	0	
	県支出金	千円	0	0	0	0	
	地方債	千円	0	0	0	0	
	受益者負担	千円	3	4	4	2	3
	その他	千円	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	38,341	41,380	38,099	39,287	35,945
人件費合計	千円	6,155	5,379	6,096	7,406	4,865	
正職員	千円	6,155	5,379	6,096	7,406	4,865	
人員	人	0.840	0.730	0.830	1.020	0.670	

【環境変化等】

開始時の周辺環境	高齢化の進行や余暇時間の増大などにより、公園利用者の増加が予想され、市民の健康志向の高まりや防災に対する意識の高揚などからも、公園に求められる機能が多様化している。
現状の周辺環境	施設の老朽化が進行しており、施設の維持に関して適切な予算の確保が必要。公園の魅力を高める植物管理の質の向上が求められている。
今後の予想される周辺環境	サービス向上による公園利用者の増加と管理経費の節減。

【事業の評価】

【目的妥当性評価】 1. 市の関与（税金支出）		
評価	A	妥当である
【目的妥当性評価】 2. 事務事業の目的（対象・意図）		
評価	A	妥当である
【目的妥当性評価】 3. 事務事業の目標（活動指標等）		
評価	B	現段階では妥当である
【有効性評価】 4. 計画の実施状況		
評価	B	概ね実施できた
【有効性評価】 5. 事務事業の目標（活動指標等）の達成度		
評価	B	概ね達成できた
【有効性評価】 6. 上位施策への貢献度		
評価	B	概ね貢献できた
【有効性評価】 7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		
評価	B	向上余地が考えられる（中小程度）
【効率性評価】 8. 投入経費（コスト）削減へのさらなる取組み		
評価	B	削減余地が考えられる（中小程度）
【効率性評価】 9. 類似事業との統合・代替の検討		
評価	B	類似事業はあるが、統合・代替は困難
【効率性評価】 10. これまでの実施手段		
評価	B	見直す余地がある（ICTの利活用により見直しの余地あり）

【総合評価】		
評価	B	公園施設等については、長期的な社会動向を見極め、維持管理に係る将来計画を策定して、効率的・合理的な維持管理を進める。

【改革案】

今後の実施方向性 維持		期待効果		
指定管理による業務実績を検証し、検証結果を基に予防保全的な維持管理を実施することにより、より効果的な管理運営を進める。 植物管理については、年間を通して一定の美観を確保しつつ、イベントスケジュールに応じたメリハリのある管理を行なう。		コスト		
		削減	維持	増大
成果	上昇			
	維持 縮小			○
改革効果（どのような効果が期待できるか）				

令和 2年度 事務事業評価表 (平成31年度)

事務事業名	永源山公園イベント事業費	担当所属	公園花とみどり課
		連絡先	

【事務事業基本情報】

分野	6都市基盤	事業期間	～
基本施策	3緑の空間の創造	会計種別	一般会計
推進施策	(2)公園・緑地・街路樹の維持管理の促進	事業種別	自治事務
根拠法令要綱			

【事業概要・指標】

事業概要	対象	永源山公園(総合公園)
	意図	市民参加による実行委員会を中心としたイベントを開催することより、地域のふれあいの場を提供し、公園の利用を促進するとともに、地域の活性化を促す。
	成果	市民参加型の実行委員会方式の地域イベントを開催することより、コミュニティの活性化が図られ、公園利用者数の増加が見込まれる。 H31目標；イベント来場者数50,000人
	手段	実行委員会主導によるイベントの開催 ・5月 つつじ祭り(R2年度 中止) ・10月 ゆめ風車まつり

【指標の推移】

	指標名	単位	H29年度実績	H30年度実績	H31年度実績	R2年度見込	
指標①	イベント来場者数	目標値	人	50000	50000	50000	10000
		実績値	人	45000	30000	33500	-
		目標達成度	%	90.00	60.00	67.00	-
指標②		目標値					
		実績値				-	
		目標達成度	%				-

指標の増減維持理由

R2年度の目標値の変更は、新型コロナウイルスの影響で利用者数の減少が見込まれるため。

【投入コスト・人員】

年度	単位	平成28年度 決算	平成29年度 決算	平成30年度 決算	平成31年度 決算	令和2年度 予算
トータルコスト	千円	6,010	6,216	10,211	9,253	11,068
事業費	千円	1,174	1,500	2,500	2,500	2,500
特定財源	国庫支出金	千円	0	0	0	0
	県支出金	千円	0	0	0	0
	地方債	千円	0	0	0	0
	受益者負担	千円	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0
一般財源	千円	1,174	1,500	2,500	2,500	2,500
人件費合計	千円	4,836	4,716	7,711	6,753	8,568
正職員	千円	4,836	4,716	7,711	6,753	8,568
人員	人	0.660	0.640	1.050	0.930	1.180

【環境変化等】

開始時の周辺環境

つつじ祭り(R2年度 中止)、ゆめ風車まつり第20回と継続しており、周南市の一大イベントとして定着している。チューリップ満開作戦は平成28年度より指定管理者で対応。

現状の周辺環境

各イベントの実行委員会において、組織体制や企画力の強化を図る必要がある。

今後の予想される周辺環境

【事業の評価】

【目的妥当性評価】 1. 市の関与（税金支出）	
評価	B 現段階では妥当である
実行委員会を中心としたイベントを開催することで、地域のふれあいの場を提供し、公園の利用を促進するとともに、地域の活性化を施すことを目的としており、妥当である。	
【目的妥当性評価】 2. 事務事業の目的（対象・意図）	
評価	B 現段階では妥当である
実行委員会を中心としたイベントを開催することで、地域のふれあいの場を提供し、公園の利用を促進するとともに、地域の活性化を施すことを目的とする。	
【目的妥当性評価】 3. 事務事業の目標（活動指標等）	
評価	B 現段階では妥当である
活動指標：来場者数	
【有効性評価】 4. 計画の実施状況	
評価	B 概ね実施できた
概ね計画通り達成できた。	
【有効性評価】 5. 事務事業の目標（活動指標等）の達成度	
評価	C 達成できなかった
他地域で開催されるイベント等の影響から、目標達成度が67%となった。	
【有効性評価】 6. 上位施策への貢献度	
評価	B 概ね貢献できた
概ね達成できた。	
【有効性評価】 7. 事業成果の向上へのさらなる取組み	
評価	B 向上余地が考えられる（中小程度）
新たな実行委員の募集といった組織体制や企画力強化等、向上の余地が考えられる。	
【効率性評価】 8. 投入経費（コスト）削減へのさらなる取組み	
評価	B 削減余地が考えられる（中小程度）
新たな実行委員の募集といった組織体制や企画力強化等により、経費の削減の余地が考えられる。	
【効率性評価】 9. 類似事業との統合・代替の検討	
評価	B 類似事業はあるが、統合・代替は困難
代替は困難。	
【効率性評価】 10. これまでの実施手段	
評価	B 見直す余地がある（ICTの利活用により見直しの余地あり）
新たな実行委員の募集といった組織体制や企画力強化等、実施手段の改善の余地があるか。	

【総合評価】	
評価	B
つつじ祭りやゆめ風車まつりは、従来から実行委員会方式で開催されており、地域の活性化にも寄与していることから、今後も継続して実施していく。	

【改革案】

今後の実施方向性 維持		期待効果		
地域の活性化と観光振興に寄与するものであり、実行委員会との連携による市民参画事業でもあるので、継続的に開催していく。		コスト		
		削減	維持	増大
成果	上昇			
	維持 縮小		○	
改革効果（どのような効果が期待できるか）				
地域のふれあいの場を提供し、公園の利用を促進するとともに、地域の活性化を施すことができる。				

令和 2年度 事務事業評価表 (平成31年度)

事務事業名	児童福祉施設管理事業費	担当所属	公園花とみどり課
		連絡先	

【事務事業基本情報】

分野	6都市基盤	事業期間	～
基本施策	3緑の空間の創造	会計種別	一般会計
推進施策	(2)公園・緑地・街路樹の維持管理の促進	事業種別	自治事務
根拠法令要綱			

【事業概要・指標】

事業概要	対象	児童遊園48箇所
	意図	子どもたちが安心して利用できるレクリエーションやコミュニティの場を確保するため、児童遊園の適切な維持管理を行う。
	成果	安心・安全で快適な公園環境の維持管理を行うことで、子どもたちの遊び場を確保し、子どもたちを社会全体で育む環境づくりを推進する。
	手段	対象児童遊園48箇所 児童遊園の借地契約事務（借地契約件数8件）、施設の修繕、遊具の点検等

【指標の推移】

指標名		単位	H29年度実績	H30年度実績	H31年度実績	R 2年度見込
指標①	遊具の点検回数	目標値	回	6	6	6
		実績値	回	6	6	-
		目標達成度	%	100.00	100.00	100.00
指標②		目標値				-
		実績値				-
		目標達成度	%			

指標の増減維持理由

--	--	--	--	--	--	--

【投入コスト・人員】

年度	単位	平成28年度 決算	平成29年度 決算	平成30年度 決算	平成31年度 決算	令和 2年度 予算	
トータルコスト	千円	5,717	4,838	7,129	4,889	7,026	
事業費	千円	2,713	2,554	4,118	2,348	2,379	
特定財源	国庫支出金	千円	0	0	0	0	
	県支出金	千円	0	0	0	0	
	地方債	千円	0	0	0	0	
	受益者負担	千円	13	8	20	15	20
	その他	千円	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	2,700	2,546	4,098	2,333	2,359
人件費合計	千円	3,004	2,284	3,011	2,541	12,813	
正職員	千円	3,004	2,284	3,011	2,541	4,647	
人員	人	0.410	0.310	0.410	0.350	0.640	

【環境変化等】

開始時の周辺環境	児童の健全育成のため、安全な遊び場の提供や整備が求められているが、車社会の熟成や遊び場自体の魅力の問題から、利用度合いは低下傾向にある。
現状の周辺環境	維持管理経費を抑えつつ、耐用年数を越えた大量の遊園施設改善を進めるかが課題である。開設当初から地域住民の協力を得て、草刈、清掃等の維持管理が行われてきたが、少子高齢化に伴い、年々その維持管理を取り巻く環境は厳しい状況下にある。
今後の予想される周辺環境	

【事業の評価】

【目的妥当性評価】 1. 市の関与（税金支出）	
評価	A 妥当である
児童が安心して利用できるレクリエーションやコミュニティの場を提供する施設のため妥当である。	
【目的妥当性評価】 2. 事務事業の目的（対象・意図）	
評価	A 妥当である
児童が安心して利用できるレクリエーションやコミュニティの場を提供する施設の確保。	
【目的妥当性評価】 3. 事務事業の目標（活動指標等）	
評価	B 現段階では妥当である
活動指標：遊具の点検回数	
【有効性評価】 4. 計画の実施状況	
評価	B 概ね実施できた
概ね、実施できた。	
【有効性評価】 5. 事務事業の目標（活動指標等）の達成度	
評価	A 達成できた
遊具の点検が達成できた。	
【有効性評価】 6. 上位施策への貢献度	
評価	B 概ね貢献できた
概ね貢献できた。	
【有効性評価】 7. 事業成果の向上へのさらなる取組み	
評価	B 向上余地が考えられる（中小程度）
少子高齢化に伴い、年々維持管理を取り巻く環境は厳しくなっている。	
【効率性評価】 8. 投入経費（コスト）削減へのさらなる取組み	
評価	B 削減余地が考えられる（中小程度）
年々維持管理を取り巻く環境は厳しくなっているが、地域と連携し、維持管理の経費削減に取り組みたい。	
【効率性評価】 9. 類似事業との統合・代替の検討	
評価	B 類似事業はあるが、統合・代替は困難
代替は困難。	
【効率性評価】 10. これまでの実施手段	
評価	B 見直す余地がある（ICTの利活用により見直しの余地あり）
地元と連携する等、維持管理に改善の余地がある。	

【総合評価】	
評価	B
子どもをはじめ児童遊園利用者の安心安全を図るため、適切な維持管理を行なう。	

【改革案】

今後の実施方向性 維持 児童がいつでも安全・快適に使用することができるような適正な管理を行なうことが必要で、危険な遊具については、撤去・修繕に努める。	期待効果			
	成果	コスト 削減 維持 増大		
		上昇 維持 縮小	○	
改革効果（どのような効果が期待できるか） 児童が安心して公園を利用することができる。				

令和 2年度 事務事業評価表 (平成31年度)

事務事業名	農村公園管理事業費	担当所属	公園花とみどり課
		連絡先	

【事務事業基本情報】

分野	6都市基盤	事業期間	～
基本施策	3緑の空間の創造	会計種別	一般会計
推進施策	(2)公園・緑地・街路樹の維持管理の促進	事業種別	自治事務
根拠法令要綱			

【事業概要・指標】

事業概要	対象	農村公園6箇所(鹿野地域)
	意図	農村地域の市民のレクリエーションやコミュニティの場として利用されている、農村公園の適切な維持管理を行う。
	成果	安心・安全で快適な公園環境の維持管理を行うことで、地域の交流の場を確保し、農村地域のコミュニティの活性化を図る。
	手段	鹿野地域6箇所の農村公園の維持管理業務 ・小潮農村公園 ・西河内農村公園 ・本町農村公園 ・石船農村公園 ・大泉農村公園 ・田原農村公園

【指標の推移】

	指標名	単位	H29年度実績	H30年度実績	H31年度実績	R 2年度見込
指標①	施設の点検回数	目標値	回	1	1	1
		実績値	回	1	1	-
		目標達成度	%	100.00	100.00	100.00
指標②		目標値				
		実績値				-
		目標達成度	%			

指標の増減維持理由

--	--	--	--	--	--	--

【投入コスト・人員】

年度	単位	平成28年度 決算	平成29年度 決算	平成30年度 決算	平成31年度 決算	令和 2年度 予算
トータルコスト	千円	1,531	1,103	577	724	1,074
事業費	千円	505	1,029	504	506	566
特定財源	国庫支出金	千円	0	0	0	0
	県支出金	千円	0	0	0	0
	地方債	千円	0	0	0	0
	受益者負担	千円	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0
	一般財源	千円	505	1,029	504	506
人件費合計	千円	1,026	74	73	218	508
正職員	千円	1,026	74	73	218	508
人員	人	0.140	0.010	0.010	0.030	0.070

【環境変化等】

開始時の周辺環境	地域の憩いの場(地域の祭事やランドゴルフ等)として利用されており、地域活性化への一助となっている。
現状の周辺環境	現状の維持管理は利用上最低限のものである。 農村環境整備を目的に設置したものであるが、荒廃が著しく、地元集落の利用も少ない一部の公園については存続意義の検討を要する。
今後の予想される周辺環境	

【事業の評価】

【目的妥当性評価】 1. 市の関与（税金支出）	
評価	A 妥当である
地域の憩いの場として利用され、地域活性化の一助となっており妥当である。	
【目的妥当性評価】 2. 事務事業の目的（対象・意図）	
評価	A 妥当である
農村地域の市民のレクリエーションやコミュニティの場として利用されている農村公園の適切な維持管理を行う。	
【目的妥当性評価】 3. 事務事業の目標（活動指標等）	
評価	B 現段階では妥当である
活動指標：施設の点検回数	
【有効性評価】 4. 計画の実施状況	
評価	B 概ね実施できた
鹿野地区6か所の農村公園の維持管理を実施 ※小潮農村公園、西河内農村公園、本町農村公園、石船農村公園、大泉農村公園、田原農村公園	
【有効性評価】 5. 事務事業の目標（活動指標等）の達成度	
評価	A 達成できた
施設点検を実施し、適切な維持管理ができた。	
【有効性評価】 6. 上位施策への貢献度	
評価	B 概ね貢献できた
概ね達成できた。	
【有効性評価】 7. 事業成果の向上へのさらなる取組み	
評価	B 向上余地が考えられる（中小程度）
維持管理を地元と連携する等、改善の余地がある。	
【効率性評価】 8. 投入経費（コスト）削減へのさらなる取組み	
評価	B 削減余地が考えられる（中小程度）
維持管理を地元と連携する等、改善の余地がある。	
【効率性評価】 9. 類似事業との統合・代替の検討	
評価	B 類似事業はあるが、統合・代替は困難
鹿野地区には公園が少なく代替は困難。	
【効率性評価】 10. これまでの実施手段	
評価	B 見直す余地がある（ICTの利活用により見直しの余地あり）
地元と連携する等、維持管理に改善の余地がある。	

【総合評価】	
評価	B
中山間地域の拠点となる公園として適切な維持管理を行ない、地域のコミュニケーションや地域の活性化を促す地域活動の場として、さらなる公園機能の充実を図る。	

【改革案】

今後の実施方向性	維持	期待効果			
予防保全的な維持管理の実施		成果	コスト		
			削減	維持	増大
改革効果（どのような効果が期待できるか）		成果	上昇		
			維持	○	
利用者が安心して公園を利用することができる。		成果	縮小		

令和 2年度 事務事業評価表 (平成31年度)

事務事業名	都市緑化推進事業費	担当所属	公園花とみどり課
		連絡先	

【事務事業基本情報】

分野	6都市基盤	事業期間	～
基本施策	3緑の空間の創造	会計種別	一般会計
推進施策	(3)緑化の推進	事業種別	自治事務
根拠法令要綱			

【事業概要・指標】

事業概要	対象	市民
	意図	花とみどりに関する情報の普及を行うとともに、花とみどりにふれあう市民相互の交流の場を提供し、緑化意識の高揚を図る。
	成果	花とみどりに関する市民活動支援事業や、自然環境について学ぶ講座等を実施することで、緑化意識の高揚を図る。
	手段	公園愛護会講習会等において市の緑化推進支援活動（花苗や育苗資材の提供など）を周知し、公園花壇等の維持管理団体の緑化活動の推進を図る。 H24年度に締結した周南市と京都大学フィールド科学教育研究センターとの連携協定に基づき、各種講座を実施し「森・里・海の連携」という広い視野で自然について考えることのできる人材を育成する。

【指標の推移】

	指標名	単位	H29年度実績	H30年度実績	H31年度実績	R 2年度見込
指標①	講座開催回数	目標値	回	5	5	5
		実績値	回	5	5	5
		目標達成度	%	100.00	100.00	100.00
指標②		目標値				
		実績値				-
		目標達成度	%			

指標の増減維持理由

--

【投入コスト・人員】

年度	単位	平成28年度 決算	平成29年度 決算	平成30年度 決算	平成31年度 決算	令和 2年度 予算
トータルコスト	千円	6,018	6,612	11,748	8,681	9,656
事業費	千円	3,234	3,002	2,935	2,800	3,194
特定財源	国庫支出金	千円	0	0	0	0
	県支出金	千円	0	0	0	596
	地方債	千円	0	0	0	0
	受益者負担	千円	0	0	0	0
	その他	千円	196	0	0	0
一般財源	千円	3,038	3,002	2,935	2,800	1,664
人件費合計	千円	2,784	3,610	8,813	5,881	6,462
正職員	千円	2,784	3,610	8,813	5,881	6,462
人員	人	0.380	0.490	1.200	0.810	0.890

【環境変化等】

開始時の周辺環境	公園愛護会の設立により快適で安全な公園の環境づくりを進めている。またH24年度に周南市と京都大学フィールド科学教育研究センターとの連携協定により定期的に講座を開催し、広い視野で自然について考え学ぶ場を提供している。
現状の周辺環境	花とみどりにふれあう市民相互の交流の場を提供し、緑化意識の高揚を図っている。
今後の予想される周辺環境	市民の方々の要望に応え、講座の内容や開催回数を考えなければならない。

【事業の評価】

【目的妥当性評価】 1. 市の関与（税金支出）	
評価	B 現段階では妥当である 快適で安心な公園の環境づくりや自然について学ぶ機会を提供する等、妥当である。
【目的妥当性評価】 2. 事務事業の目的（対象・意図）	
評価	B 現段階では妥当である 花とみどりに関する情報の普及を行うとともに、花とみどりにふれあう市民相互の交流の場を提供し、緑化意識の高揚を図る。
【目的妥当性評価】 3. 事務事業の目標（活動指標等）	
評価	B 現段階では妥当である 活動指標：講座実施回数
【有効性評価】 4. 計画の実施状況	
評価	B 概ね実施できた 実施できた。
【有効性評価】 5. 事務事業の目標（活動指標等）の達成度	
評価	A 達成できた 達成できた。
【有効性評価】 6. 上位施策への貢献度	
評価	B 概ね貢献できた 概ね達成できた。
【有効性評価】 7. 事業成果の向上へのさらなる取組み	
評価	B 向上余地が考えられる（中小程度） 市民の方々の要望に応え、講座の内容や回数を考える余地はある。
【効率性評価】 8. 投入経費（コスト）削減へのさらなる取組み	
評価	A 削減余地はない 必要最小限の経費で実施しているため、削減の余地はない。
【効率性評価】 9. 類似事業との統合・代替の検討	
評価	B 類似事業はあるが、統合・代替は困難
【効率性評価】 10. これまでの実施手段	
評価	A 最適である

【総合評価】	
評価	B 市民参画による緑化活動の推進・啓発と緑豊かな環境整備のため、市民及び関係者との協議により事業を継続的に実施していく

【改革案】

今後の実施方向性	維持	期待効果		
	成果	上昇 維持 縮小	コスト	
			削減	維持
			○	
改革効果（どのような効果が期待できるか）				

令和 2年度 事務事業評価表 (平成31年度)

事務事業名	緑のリサイクル事業費	担当所属	公園花とみどり課
		連絡先	

【事務事業基本情報】

分野	6都市基盤	事業期間	～
基本施策	3緑の空間の創造	会計種別	一般会計
推進施策	(3)緑化の推進	事業種別	自治事務
根拠法令要綱			

【事業概要・指標】

事業概要	対象	公園緑地の樹木、街路樹、花壇管理団体、育苗団体
	意図	公園・街路樹等の維持管理で発生する剪定枝、伐倒木等については、ゴミとしてではなく資源として捉え、地球環境にやさしく、最小の費用で活用を図る。この事業により、公園・緑地・地域花壇の緑化促進資材として、公園緑地分野の循環型社会の形成を目指す。
	成果	公園樹木や街路樹から発生する枝木をチップ化し、公園・緑地・地域花壇等の緑化資材として活用することにより、環境に配慮した循環型社会の形成を推進する。
	手段	公園・街路樹等の維持管理で発生する剪定枝、伐倒木等を指定場所に集積し、木材破砕処理機によりチップ化し堆肥化したものを、公園緑地・地域花壇の緑化促進剤として活用する。樹木管理箇所：街路樹配置路線(50路線)、公園数(166公園) ストックヤード4箇所： 徳山・新南陽地区＝ベガサス、周南緑地 熊毛地区＝高高原、鹿野地区＝石鍋工業団地

【指標の推移】

	指標名	単位	H29年度実績	H30年度実績	H31年度実績	R 2年度見込	
指標①	維持公園箇所数	目標値	箇所	163	163	166	166
		実績値	箇所	163	163	166	-
		目標達成度	%	100.00	100.00	100.00	-
指標②		目標値					
		実績値				-	
		目標達成度	%				-

指標の増減維持理由

--	--	--	--	--	--	--

【投入コスト・人員】

年度	単位	平成28年度 決算	平成29年度 決算	平成30年度 決算	平成31年度 決算	令和 2年度 予算
トータルコスト	千円	7,947	7,964	7,145	6,901	6,633
事業費	千円	4,796	4,796	4,795	4,795	4,818
特定財源	国庫支出金	千円	0	0	0	0
	県支出金	千円	0	0	0	0
	地方債	千円	0	0	0	0
	受益者負担	千円	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0
	一般財源	千円	4,796	4,796	4,795	4,795
人件費合計	千円	3,151	3,168	2,350	2,106	1,815
正職員	千円	3,151	3,168	2,350	2,106	1,815
人員	人	0.430	0.430	0.320	0.290	0.250

【環境変化等】

開始時の周辺環境	平成20年度から事業を開始、環境事業として効果は大きい。
現状の周辺環境	市民への事業の周知と利用団体数の拡大。 利用可能なチップ材としての品質確保が難しい。
今後の予想される周辺環境	

【事業の評価】

【目的妥当性評価】 1. 市の関与（税金支出）		
評価	B	現段階では妥当である 環境事業としての取組みであり妥当。
【目的妥当性評価】 2. 事務事業の目的（対象・意図）		
評価	B	現段階では妥当である 公園維持等で発生する剪定枝等を「資源」としてとらえ、公園・緑化・地域花壇等の緑化促進資材として活用する等、循環型社会の形成を目指す。
【目的妥当性評価】 3. 事務事業の目標（活動指標等）		
評価	B	現段階では妥当である 活動指標：維持公園箇所
【有効性評価】 4. 計画の実施状況		
評価	A	実施できた 実施できた。
【有効性評価】 5. 事務事業の目標（活動指標等）の達成度		
評価	A	達成できた 公園樹木や街路樹から発生する樹木をチップ化し、公園・緑地・地域花壇等の緑化促進資材として活用することにより、環境に配慮した循環型社会の形成を推進することができた。
【有効性評価】 6. 上位施策への貢献度		
評価	B	概ね貢献できた 概ね貢献できた。
【有効性評価】 7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		
評価	B	向上余地が考えられる（中小程度） 緑化促進資材の利用が、限られた団体等になってきていることから、公園愛護団体をはじめ、市民活動団体等にもPRし、利用の拡充を図りたい。
【効率性評価】 8. 投入経費（コスト）削減へのさらなる取組み		
評価	B	削減余地が考えられる（中小程度） 伐採木等の活用の新たな方法を検討していきたい。
【効率性評価】 9. 類似事業との統合・代替の検討		
評価	B	類似事業はあるが、統合・代替は困難 花いっぱい運動等、類似事業はあるが、統合や代替は困難である。
【効率性評価】 10. これまでの実施手段		
評価	B	見直す余地がある（ICTの利活用により見直しの余地あり） 伐採木等の活用の新たな方法を検討しながら、見直しの余地がある。

【総合評価】		
評価	B	低炭素社会の実現に向けた取り組みであり、本事業は重要な役割を担っている。今後はさらなるチップ材の利活用を推進する。

【改革案】

今後の実施方向性 維持		期待効果		
これまでの実績では、年間約700m3がチップ化され、愛護会等花壇づくりの団体が緑化促進資材として利用している。今後もコストに配慮し、事業の効率性を高めたい。		コスト		
		削減	維持	増大
成果	上昇			
	維持 縮小	○		
改革効果（どのような効果が期待できるか）				
事業が浸透し、緑化促進資材としての利用が増えることで、緑のリサイクルの巡回型社会の仕組みの構築が可能になる。				